

## 上部消化管(食道・胃・十二指腸)検査を受けられる方へ

検査日時 平成 年 月 日

大垣市民病院 外来放射線 X 線透視室

### ・検査を受けられる前に

胃の透視検査を受けるにあたり、胃内に食物残渣があると病変と判別がつかない可能性がありますので、原則として検査当日の朝食は絶食でお願いします。

### ・検査中に

検査直前に、胃の蠕動運動(食物を送り出す運動)を一時的に抑制する注射(ブスコパン、コリオパン)を筋肉に注射します。この注射による副作用として口渇(口の中のかわき)、目のかすみなどの症状が現れますが数分でもとに戻りますのでご安心してください。この薬剤の禁忌(使用してはならない)例として狭心症、心筋梗塞、緑内障、前立腺肥大などがありますので診療科の診察および問診時に、現在治療中の方、これらの既往歴のある方は申し出てください。

検査は、バリウムと空気により胃の中を写し出します(二重造影法)。この際、空気を胃内に送り込む方法として発泡剤(炭酸顆粒)を飲用して頂きます。やや飲みづらいますが顆粒のうちに素早く水で食道に流し込んでください。水と顆粒が混ざると数秒のうちに発泡しますので口の中でグチュグチュと混ぜると飲みづらくなりますので注意が必要です。

バリウムの飲料量は、150cc前後です。飲用時は、急がなくても結構ですのでこぼさないように飲んでください。こぼして検査着にバリウムが付着すると写真のそのまま写りますので注意してください。

バリウムおよび発泡剤飲用後は、撮影に入ります。胃の全ての壁にバリウムを付着させ写真に収めますので体位変更(左右および回転)を繰り返します。医師および技師の指示に従い協力してください。

### ・検査後に

検査後は、バリウムの中に液体の下剤が事前に入っていますので約2~3時間後(個人差があります)に下剤症状になりバリウムが体外に排出されます。便秘症の方は、下剤を追加しますのであらかじめ診察の時に申し出てください。また、バリウム製剤は大腸にて固まりやすいので検査終了後はなるべく多く水分を取るよう心がけてください。